

# 愛知県西尾市農業委員会（機構関連事業を活用して農地の集約化を推進）

【農業委員会の体制】（令和2年7月20日任期開始 新制度移行後2期目）  
農業委員18名、農地利用最適化推進委員23名、事務局職員5名

## 1 地区の特徴・状況、課題

○西尾市は、矢作川の豊かな水と温暖な気候に恵まれ、「抹茶」の原料であるてん茶を始め、カーネーションなどの花きや野菜などの施設園芸が営まれている。また、稲作、梨、イチジクの生産が盛んである。近年、耕作者の高齢化と担い手不足や生産資材の高騰により、経営環境が厳しい状況が続いている。

## 2 課題解決に向けた活動（取組と工夫）

○中根新田地区は、水利が用排水兼用で海に近い平地のため塩害や水管理が課題であり、その解消のため、令和元年度「機構関連農地整備事業」を活用し、用水のパイプライン化と農地の集約を行った。



## 3 活動の成果

○地域の担い手から提案があり、農地所有者の代表である耕作委員の理解を得て、農地利用最適化推進委員等の関係者が集まり、平成30年7月に協議会を設立し、地権者240人に対し説明会を開催するとともに意向調査を実施した。その後、円滑化事業で行っていた貸借の契約を解約して、農地中間管理事業による貸借に切り替えるとともに担い手3人に集積・集約化した。水田の担い手への農地集積率は76%から95%となり、1経営体当たりの経営面積23.8ha。連担化も進み一団地当たり0.4haから2.2haとなり集約化ができた。  
○今後、一色地区でも同様の活動を行っていく。